



えほんだより

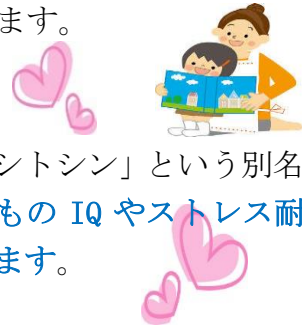
平成30年4月23日
岡山市立七区小学校

1年生も、すっかり学校に慣れ、お兄さんやお姉さんたちと楽しく遊ぶ姿が見られるようになってきました。いよいよゴールデンウィークが近づいてきます。春風に誘われて外出の機会が多くなる時期ですが、ゆっくりと体を休めたり、「子ども読書週間(4月23日～5月12日)」を楽しんだりする中で、家族のふれあいを大切にしていきたいと思っています。

なぜ、「読み聞かせ」の大切さが話題となっているのか、絵本の読み聞かせにどんな効果があるのかをまとめてみました。ご一読いただき、「なるほど」と感じられた方は、これから始めてみてください。きっと何年か先に「読み聞かせの大切さ」を実感できる日がくることと思います。

1 コミュニケーションが深まり親子の絆が増す

膝に抱いたり添い寝して読んだり、スキンシップが増すことで、「オキシトシン」という別名“愛情ホルモン”とも呼ばれるホルモンが分泌されます。このホルモンは子どものIQやストレス耐性をアップするだけでなく、読み聞かせをする側にも幸福感を感じさせてくれます。



2 想像力・知的好奇心が育つ!

言葉がわかる子どもに読み聞かせすると、物語の先を考えてワクワクしたり、ドキドキしたりと想像力がドンドン豊かになっていきます。さらに物語を通して思いやりの心や優しい心が育っていきます。またストーリーに意外性がある場合は、自分が予測した内容と違う内容だったことにビックリし、読み終わった後もお話の続きを考えたり、もしも〇〇だったら...と空想したりすることで発想力が向上します。好きなものに関する本を読み聞かせる場合、お子さんがそれまで「どうしてだろう?」と疑問に思っていたことや、意外な事実を知る喜びを感じることができます。これによって知的好奇心が育ちます。この知的好奇心が後の学習意欲の源になるのです。

3 集中力がつく

言葉があまり理解できない年齢だったり、動くのが大好きだったり、読み聞かせに慣れていないお子さんの場合は、最初は読み聞かせていても次のページをどんどんめくっていったり、飽きて途中でどこかへ行ってしまふことがあります。そこで「うちの子、本が嫌いみたい」と思う必要は全くありません。初めはそういうお子さんも、翌日また読んであげる、ダメなら次の日も...と繰り返すうちに、だんだんと絵本に興味を持ってきます。そしてお話がわかるようになる頃には集中力もつき、物語に入りこんでまるで主人公になったかのように、色々なことを感じていくことができるようになります。

4 語彙(ことば)が増える!

読み聞かせで色々なお話を聞くことにより、お子さんは自然とたくさんの言葉に出会います。日常では使わない言葉も知ることができ、そのうちに自分でも使うようになっていきます。

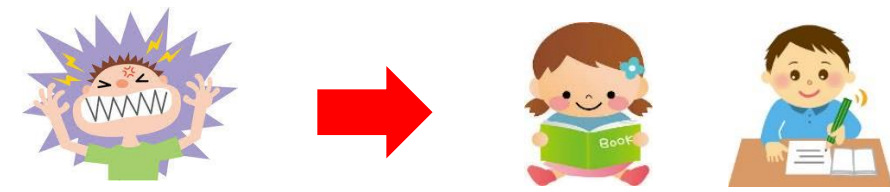
こうして語彙が豊富になると会話も上手になり、コミュニケーション能力が増します。また自分の気持ちを伝えやすくなるので、イライラも減り穏やかな親子のコミュニケーションが取りやすくなります。小学校入学後の児童の学習理解には、語彙力と文章理解力が関係します!語彙力が豊富だと様々な教科が理解しやすく、逆に語彙力が低いと学力が低下しやすい傾向にあります。実は入学後のお子さんの成績向上に、小さい頃からの読み聞かせはとても有効なのです。

5 本好きな子どもに!

小さい頃から読み聞かせをしてもらっている子どもは、たくさんの本と触れ合うこととなります。すると本を通して自分の世界が広がり、物語の中から様々なことを学んでいきます。こうして読書への抵抗がなくなり、文字が読めるように成長する学童期には、自然と本が好きな子どもに成長していきます。また、本好きの子どもに成長すると、様々な困難を乗り越える鍵を本の中から見つけ出すチャンスにも恵まれます。そのため思春期などの親とのコミュニケーションが少なくなる時期でも、本からも生きるためのヒントをたくさん吸収できるので、安心して見守ることができます。

6 ママやパパにとってもプラスの効果!

読み聞かせは読み手であるママやパパにとっても良いことが...!音読というのは脳の前頭前野という部分を活性化させる脳トレになるのです!この前頭前野を鍛えると、感情や記憶のコントロール、思考力、集中力がアップします。「なんか最近イライラして感情のコントロールが下手になったなあ」とか、「資格をとろう」と思っているママやパパにとっても、読み聞かせはイイことだらけなのです。



子どもと同じ世界を共有しましょう!

◇読み聞かせは、子どもと一緒に、絵本の持つ世界観、そこから生まれる感情や互いのぬくもりなど、様々な価値観を共有することができるコミュニケーションの道具です。
◇子どもと一緒に絵本の世界を楽しむことが「絵本の読み聞かせ」であり、その結果、子どもの世界が広がり、成長していくのです。

※読み聞かせは膝(ひざ)の上や布団の中でするのがおすすめ。

※子どもの体温、鼓動、絵本から受けた感情、驚き、息をのむ瞬間など子どもの背中から自分のお腹にダイレクトに伝わります。絵本を読むナレーターとしての役割ではなく、子どもと同じ立場で絵本を読むというスタンスが大切です。



